

事務連絡  
令和5年5月10日

各正会員  
事務局責任者様

公益社団法人全国産業資源循環連合会  
専務理事 室石 泰弘  
(担当:事業部 本多)

## 産業廃棄物処理業の景況動向調査報告書【2023年1-3月期】の送付について

当連合会の事業の運営につきましては、日頃から格別のご協力を賜りまして厚く御礼申し上げます。

さて、本調査の実施にあたり全産連発第5号(令和5年4月6日付け)にて貴協会会員企業にご協力をお願いしたところですが、今般、景況動向調査報告書【2023年1-3月期】がまとまりましたので、送付いたします。

報告書の概要版につきましては、連合会ホームページに掲載しておりますので、以下のURLをご参照ください。

### 【報告書概要版の掲載ページ URL】

<https://www.zensanpairen.or.jp/activities/report/>

次期(2023年4-6月期)につきましては、令和5年7月中旬頃に調査依頼を予定しておりますので、ご承知おきください。

## 産業廃棄物処理業景況動向調査結果について 〔2023年1-3月期〕

公益社団法人全国産業資源循環連合会

### 〔調査結果の概要〕

今期の調査は309社から回答があった。景況判断DIは▲16(前期調査と変わらず)となった。来期の見通しは▲14となり、2ポイント改善する見込みとなっている。

経営上の問題点については、「従業員の不足」、「修理、修繕費等の増加」の回答割合が高かった。

「その他」の記述回答では、5期続けて、燃料費の高騰を懸念する声が多く寄せられた。

以下、その他業況感DIの内訳

2022年10-12月期に対して、

- ・売上高DIは▲8で、16ポイント悪化
- ・処理量DIは▲15で、15ポイント悪化
- ・営業利益DIは▲12で、6ポイント悪化
- ・資金繰りDIは▲2で、1ポイント悪化
- ・借入難易度DIは9で、1ポイント悪化
- ・設備投資DIは4で、3ポイント改善
- ・従業員数DIは2で、7ポイント改善
- ・契約単価DIは、収集運搬が8で、1ポイント改善

処分が5で、前期と変わらず

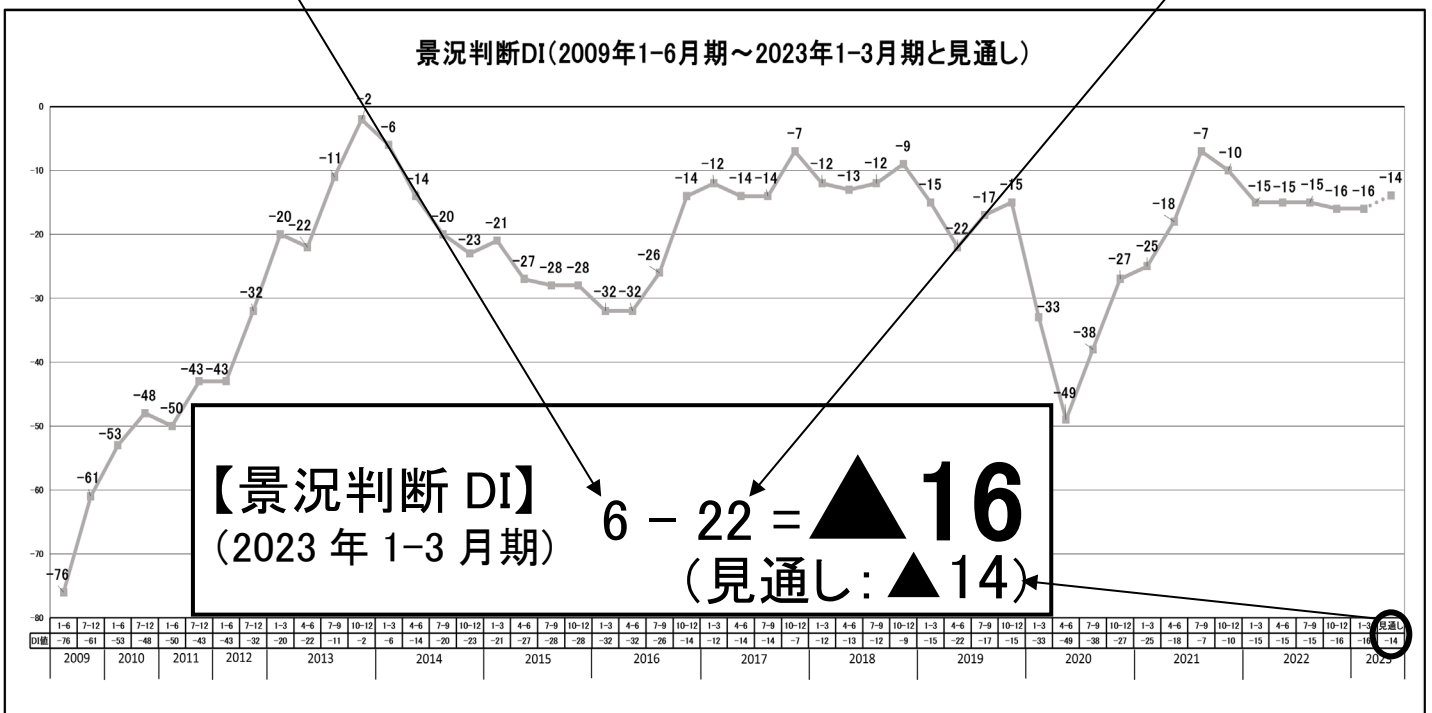
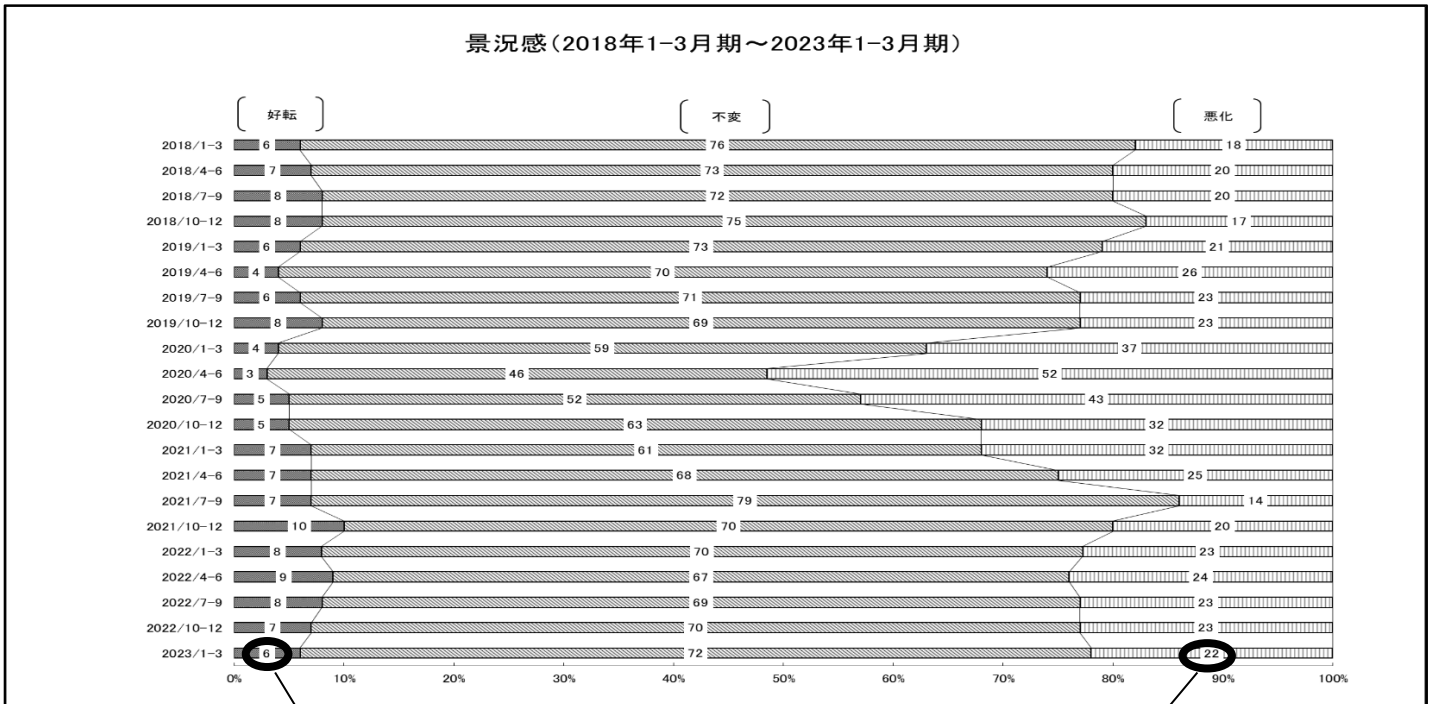
- 売上高の動向については、前年同期比で1.1%減となった。
- 処理量の動向については、前年同期比で1.1%減となった。
- 経常利益率については、前年同期比で2.0%増となった。

※DIとはデフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で「好転」・「増加」したなどとする企業割合から「悪化」・「減少」したなどとする企業割合を差し引いた値である。

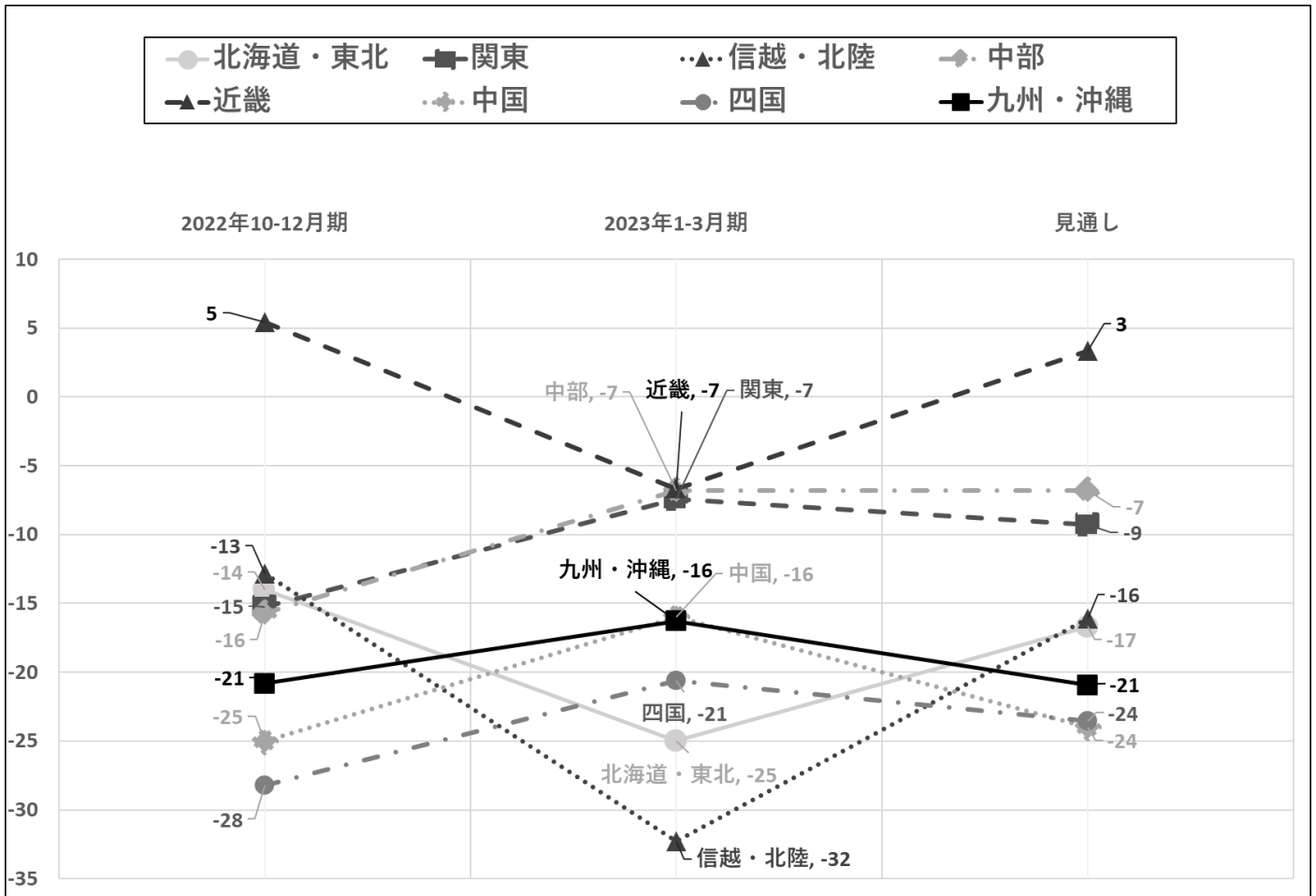
# 1. 景況感 DI(「好転」・「増加」-「悪化」・「減少」の企業割合)

## (1) 景況判断 DI

- 景況判断 DI は▲16 となり、前期と変わらず。  
見通しは▲14 となり、2 ポイント改善する見込みとなっている。
- 地域別の景況判断 DI をみると、「関東」、「中部」、「中国」、「四国」、「九州・沖縄」が改善した。(3 ページ参照)
- 地域別の景況判断 DI 見通しをみると、「北海道・東北」、「信越・北陸」、「近畿」が改善する見込みとなっている。(3 ページ参照)



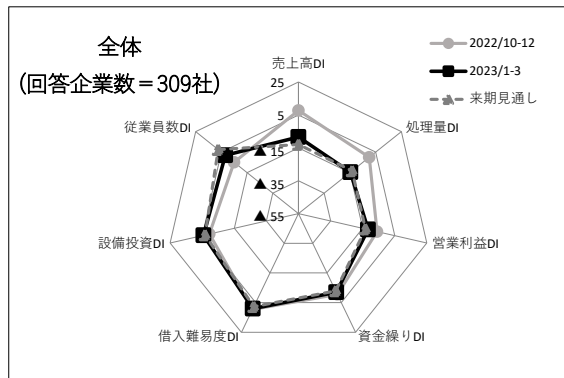
# 地域別景況判断 DI



	北海道・東北	関東	信越・北陸	中部	近畿	中国	四国	九州・沖縄
2022年10-12月期	-14	-15	-13	-16	5	-25	-28	-21
2023年1-3月期	-25	-7	-32	-7	-7	-16	-21	-16
見通し	-17	-9	-16	-7	3	-24	-24	-21

## (2) 売上高、処理量、営業利益、資金繰り、借入難易度、設備投資、従業員数 DI

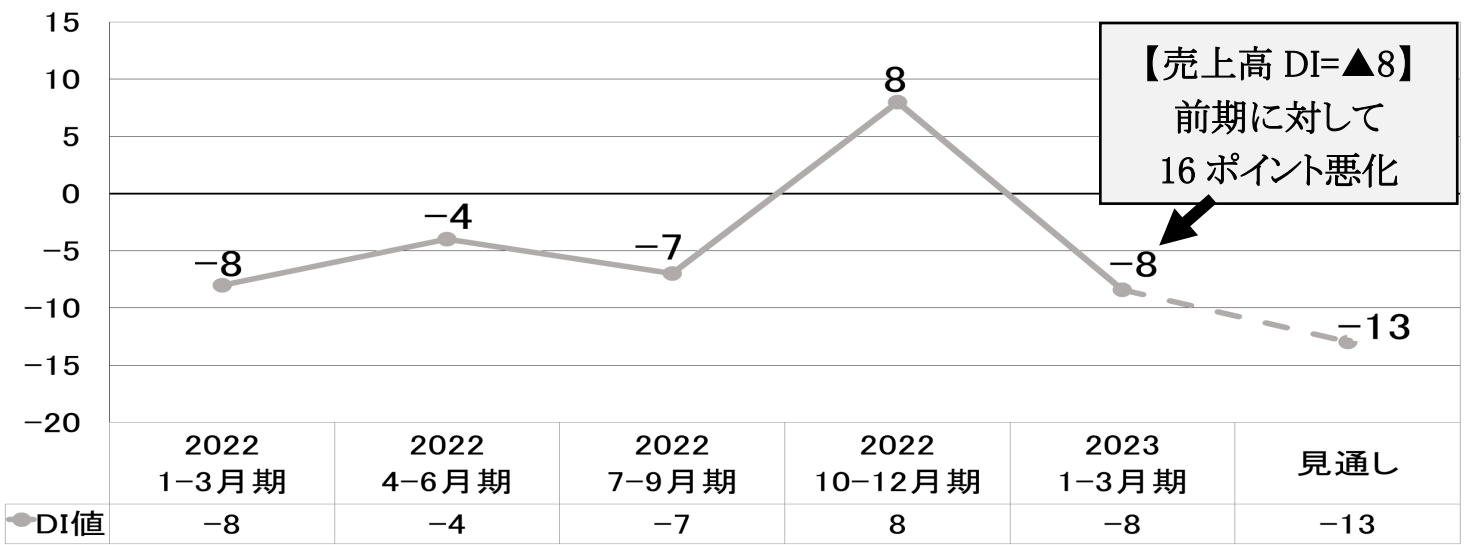
- 前期と比べて、設備投資 DI、従業員数 DI が改善した。
- 見通しは、処理量 DI、従業員数 DI が改善する見込みとなっている。



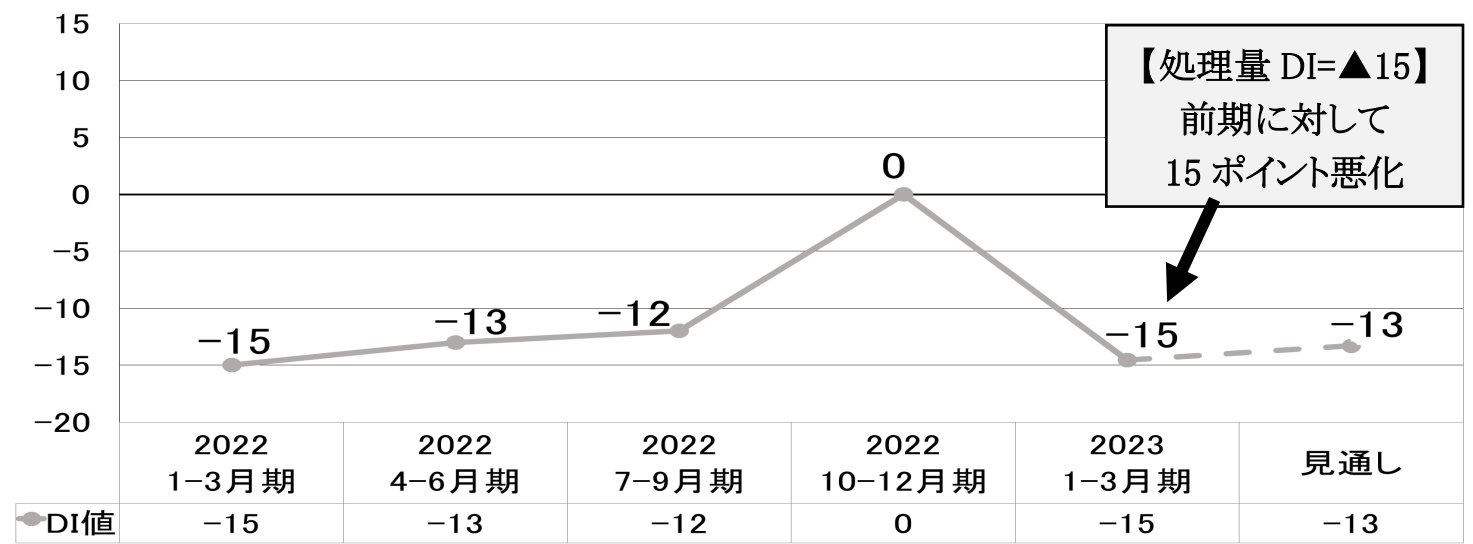
以下詳細(5~7ページ参照)

- ・売上高 DI は▲8 となり、前期と比べて 16 ポイント悪化した。  
見通しは▲13 となり、5 ポイント悪化する見込みとなっている。
- ・処理量 DI は▲15 となり、前期と比べて 15 ポイント悪化した。  
見通しは▲13 となり、2 ポイント改善する見込みとなっている。
- ・営業利益 DI は▲12 となり、前期と比べて 6 ポイント悪化した。  
見通しは▲13 となり、1 ポイント悪化する見込みとなっている。
- ・資金繰り DI は▲2 となり、前期と比べて 1 ポイント悪化した。  
見通しは▲3 となり、1 ポイント悪化する見込みとなっている。
- ・借入難易度 DI は 9 となり、前期と比べて 1 ポイント悪化した。  
見通しは 8 となり、1 ポイント悪化する見込みとなっている。
- ・設備投資 DI は 4 となり、前期と比べて 3 ポイント改善した。  
見通しは 3 となり、1 ポイント悪化する見込みとなっている。
- ・従業員数 DI は 2 となり、前期と比べて 7 ポイント改善した。  
見通しは 7 となり、5 ポイント改善する見込みとなっている。

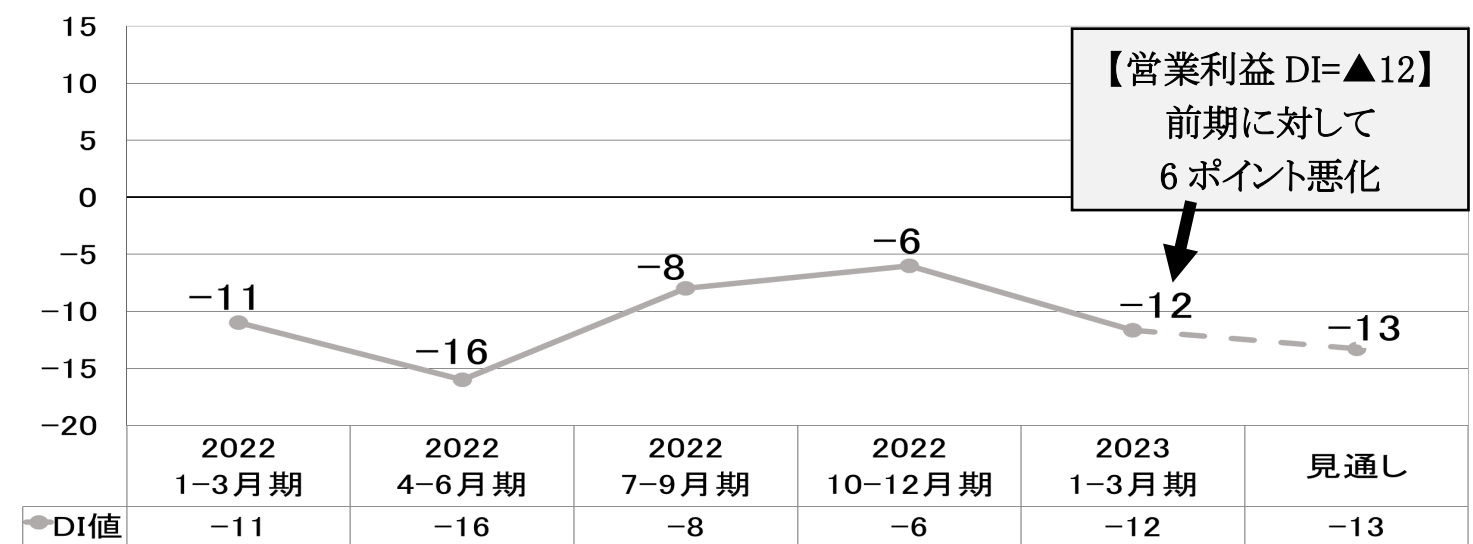
### 売上高DI (2022年1-3月期～2023年1-3月期と見通し)



### 処理量DI (2022年1-3月期～2023年1-3月期と見通し)

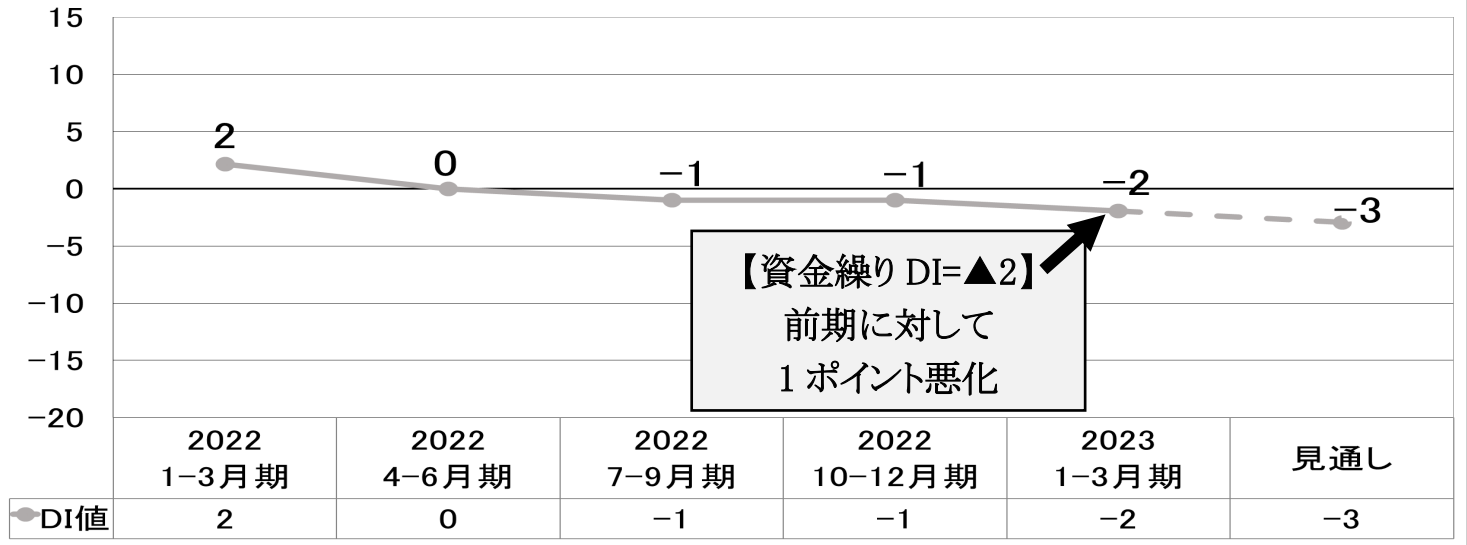


### 営業利益DI (2022年1-3月期～2023年1-3月期と見通し)



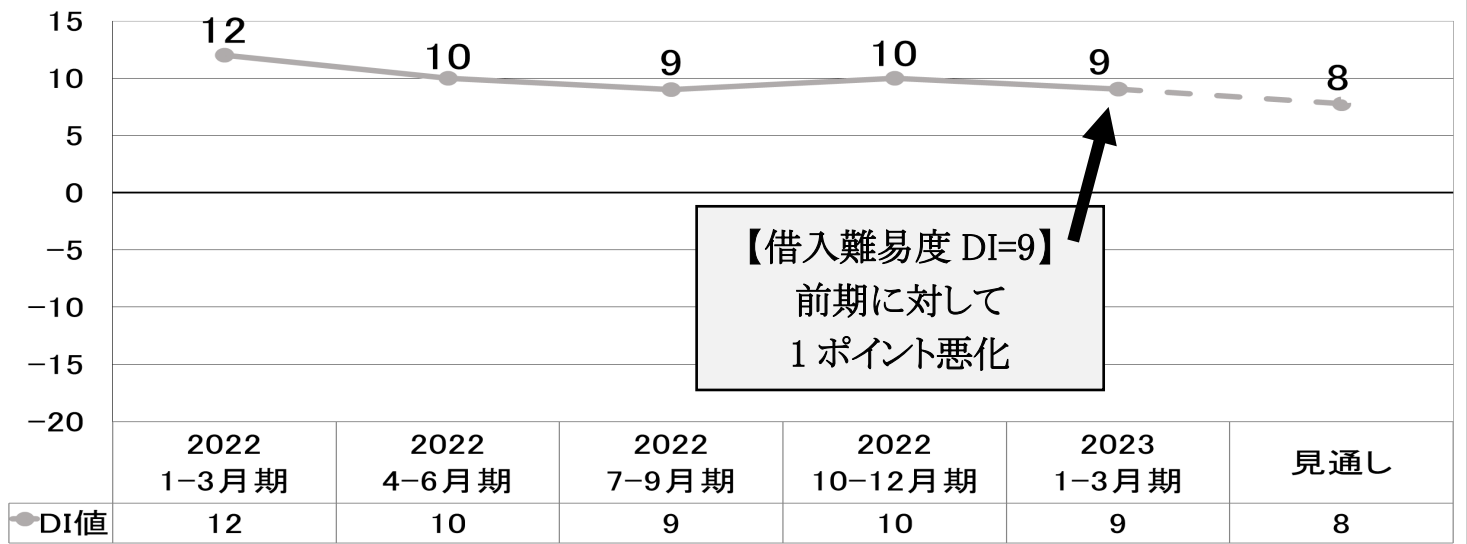
### 資金繰りDI

(2022年1-3月期～2023年1-3月期と見通し)



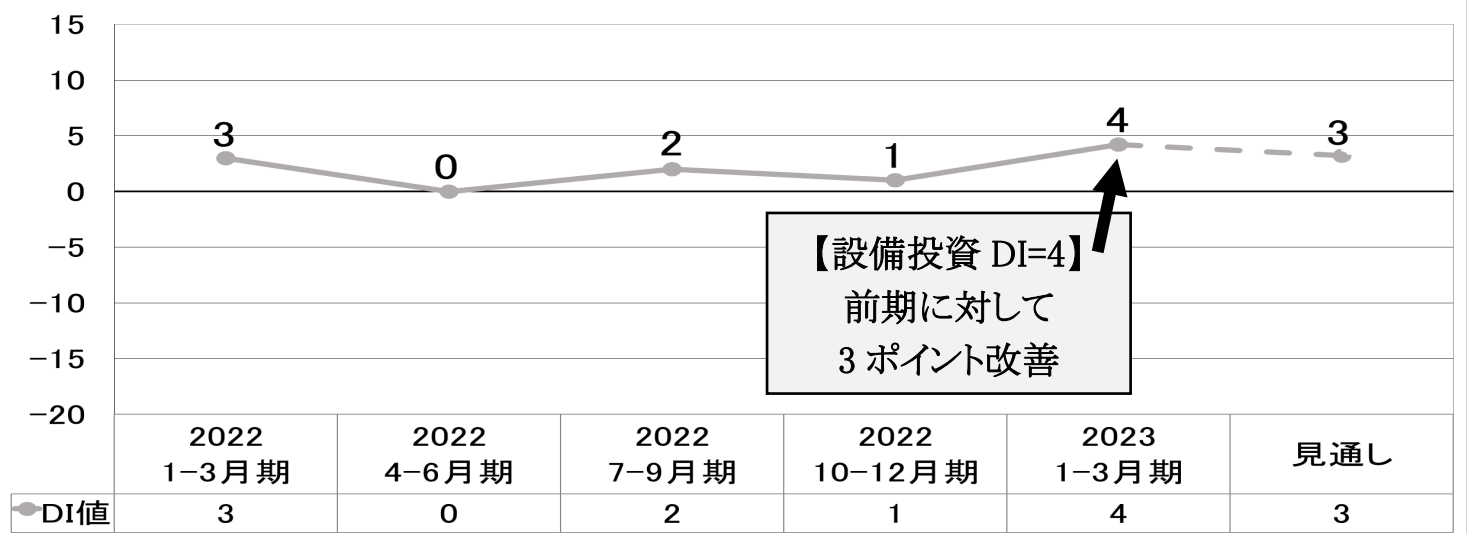
### 借入難易度DI

(2022年1-3月期～2023年1-3月期と見通し)

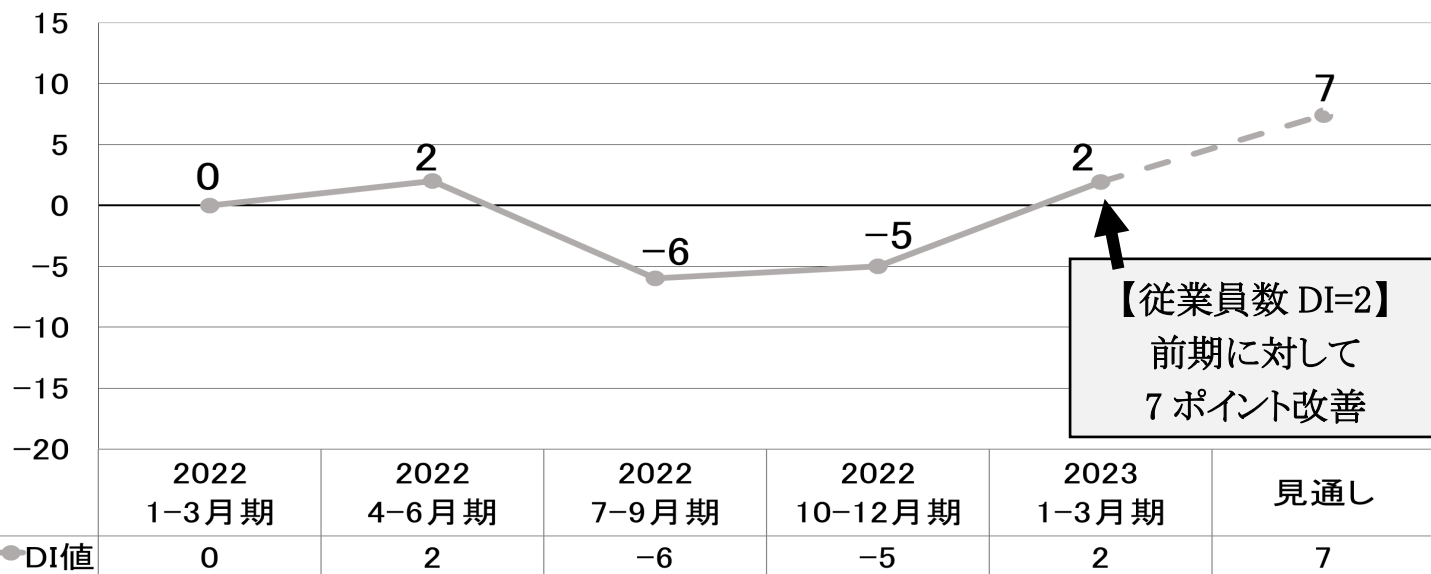


### 設備投資DI

(2022年1-3月期～2023年1-3月期と見通し)

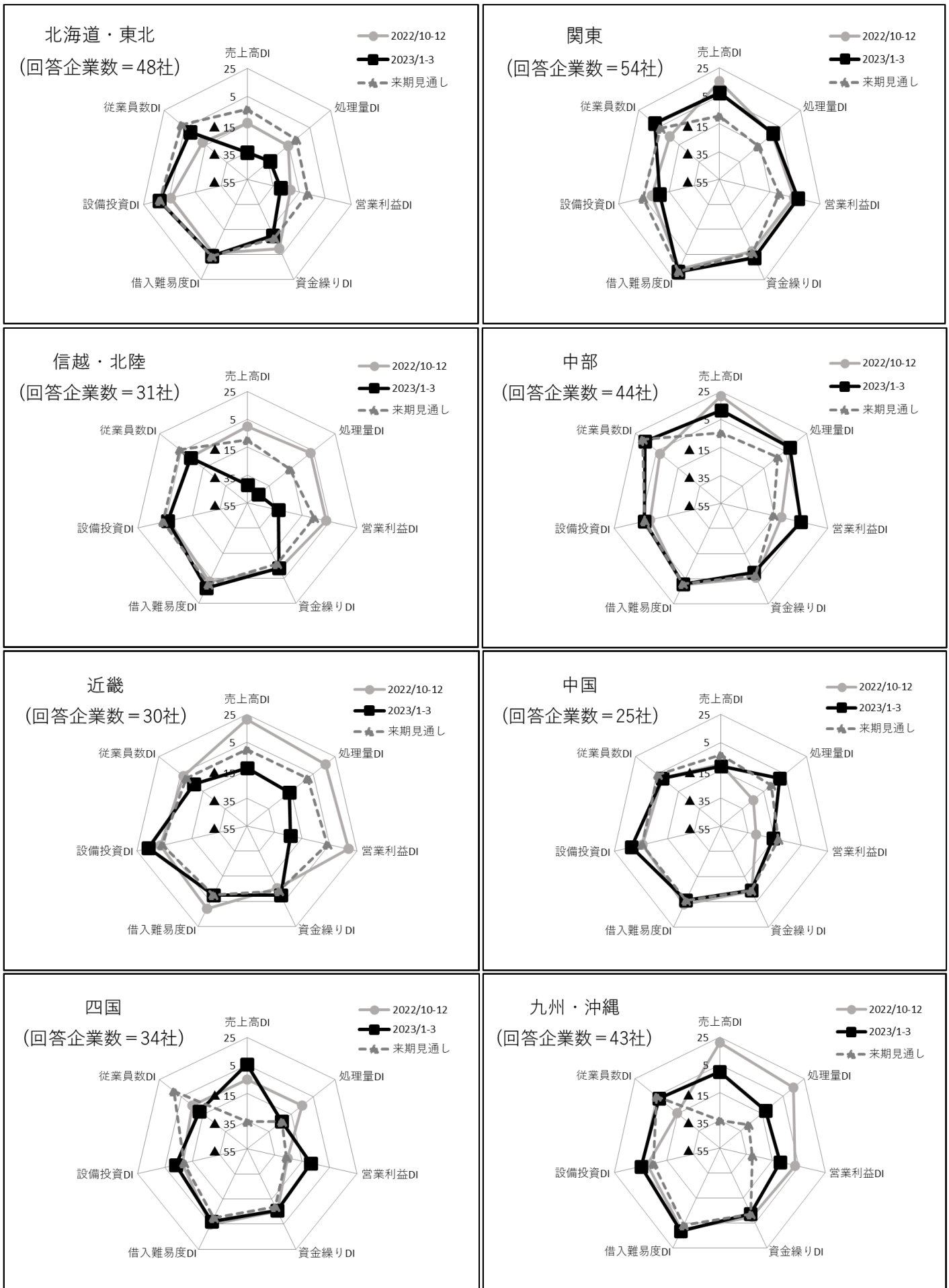


## 従業員数DI (2022年1-3月期～2023年1-3月期と見通し)



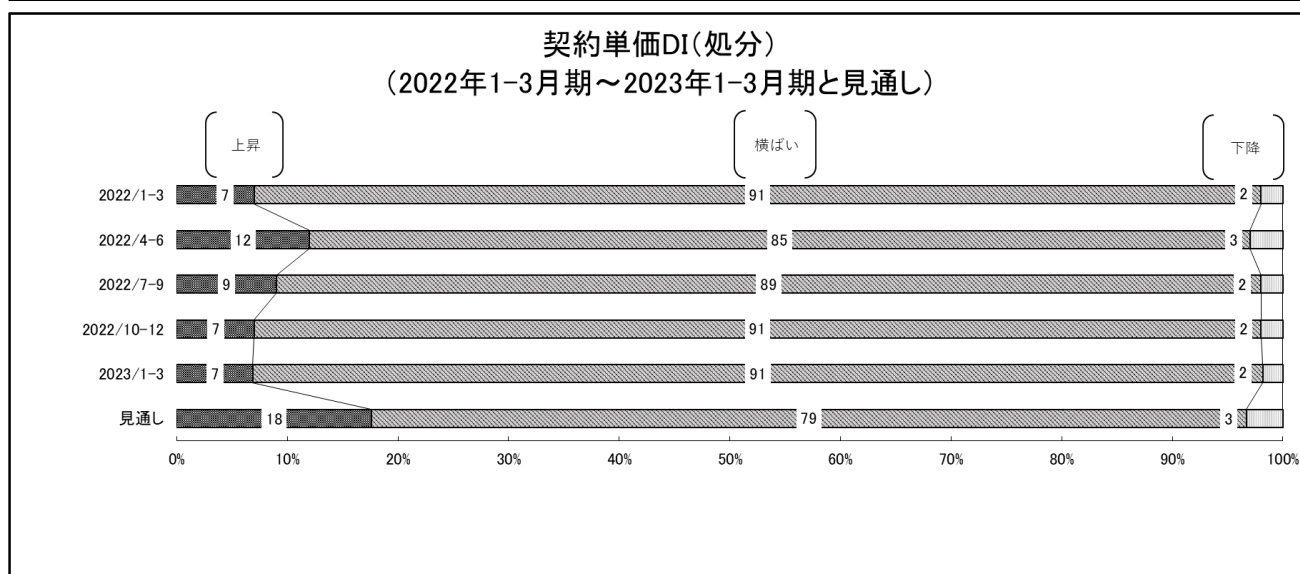
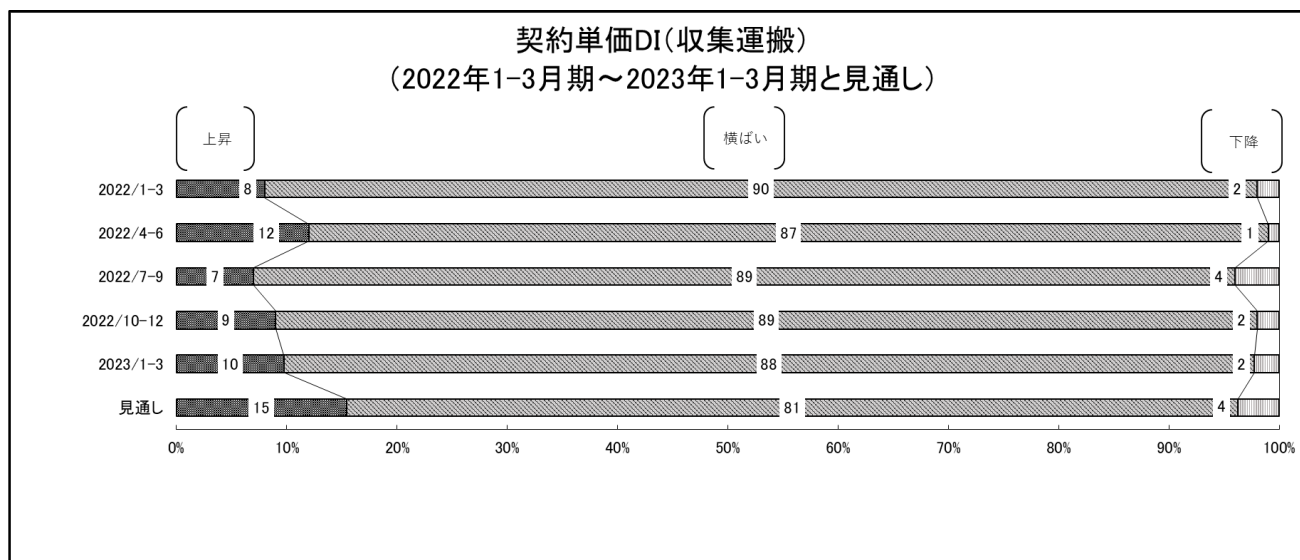


【売上高、処理量、営業利益、資金繰り、借入難易度、設備投資、従業員数 DI の地域別レーダーチャート】



### (3) 契約単価 DI

- 収集運搬の契約単価 DI は 8 となり、前期と比べて 1 ポイント改善した。  
見通しは 11 となり、3 ポイント改善する見込みとなっている。
- 処分の契約単価 DI は 5 となり、前期と変わらず。  
見通しは 15 となり、10 ポイント改善する見込みとなっている。



## 2. 売上高の動向

○ 前年同期比(3ヶ月平均)では、1.1%減となった。

有効回答数:139 社

単位:千円

前年売上高	2022年1月	2022年2月	2022年3月	平均
	8,229,944	8,884,358	10,343,722	9,152,675
今年売上高	2023年1月	2023年2月	2023年3月	平均
	8,119,669	8,668,877	10,377,920	9,055,489
前年比	▲1.3%	▲2.4%	0.3%	▲1.1%

## 3. 処理量の動向

○ 前年同期比(3ヶ月平均)では、1.1%減となった。

有効回答数:140 社

単位:トン

前年処理量	2022年1月	2022年2月	2022年3月	平均
	377,214	430,583	474,654	427,484
今年処理量	2023年1月	2023年2月	2023年3月	平均
	392,688	422,421	453,863	422,991
前年比	4.1%	▲1.9%	▲4.4%	▲1.1%

#### 4. 経常利益率(経常利益の対売上高比率)

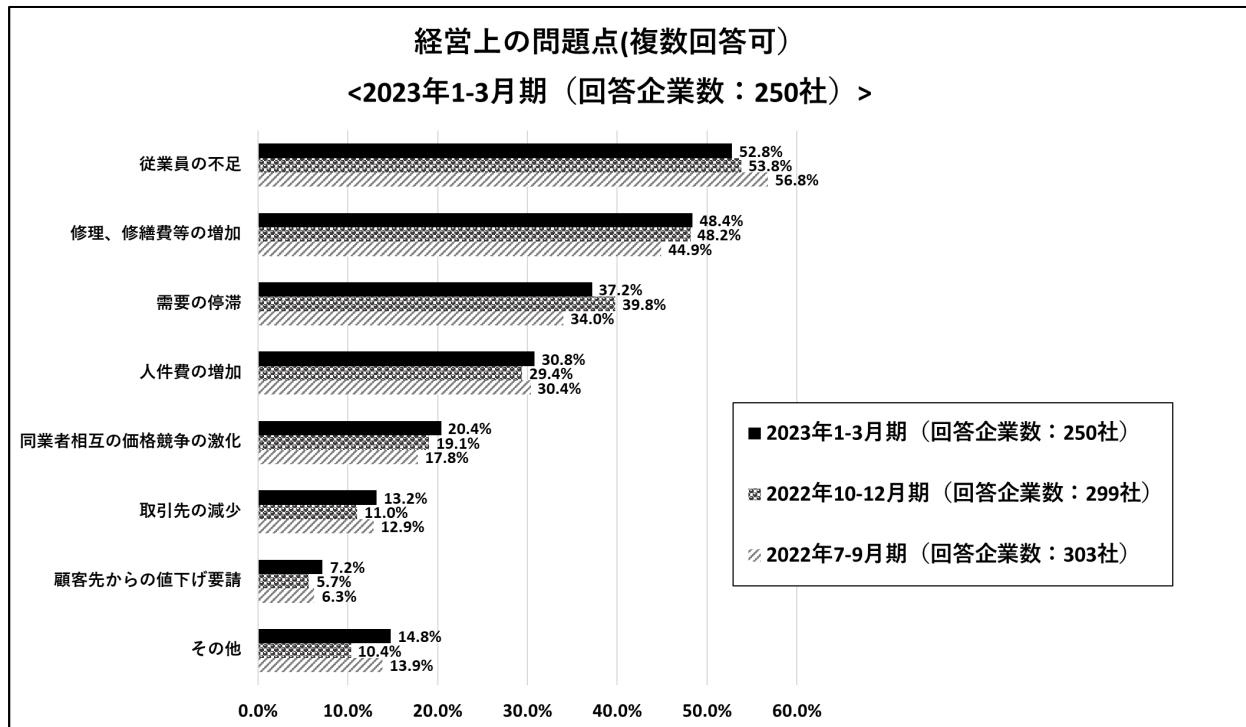
- 経常利益率の平均値は9.1%で前年同期(7.1%)より改善した。

有効回答数:121 社



## 5. 経営上の問題点(複数回答可)

- 経営上の問題点として、「従業員の不足」、「修理、修繕費等の増加」の回答割合が高かった。
- 「その他」の記述回答では、5期続けて、燃料費の高騰を懸念する声が多く寄せられた。



### 【その他記述回答の代表的な意見】

- ・ 燃料費の高騰 (全 22 件)
- ・ 円安や物価上昇の影響
- ・ 最終処分場の受入制限及び処分費の値上げ
- ・ 設備投資、設備増強に係る費用の増加

## 〔調査実施要領〕

本調査は、産業廃棄物処理業の景気動向について把握するため、全国の協会会員企業、全国産業資源循環連合会理事及び部会運営委員会委員を対象に、各社の業況の現状と今後の見通しに関する判断を調査し、集計したものである。

### (1) 調査対象者

全国の協会会員企業、全国産業資源循環連合会理事及び部会運営委員会委員

### (2) 調査期間

2023年4月7日～4月30日

### (3) 調査方法

Webによるアンケート

### (4) 回答数・回答率

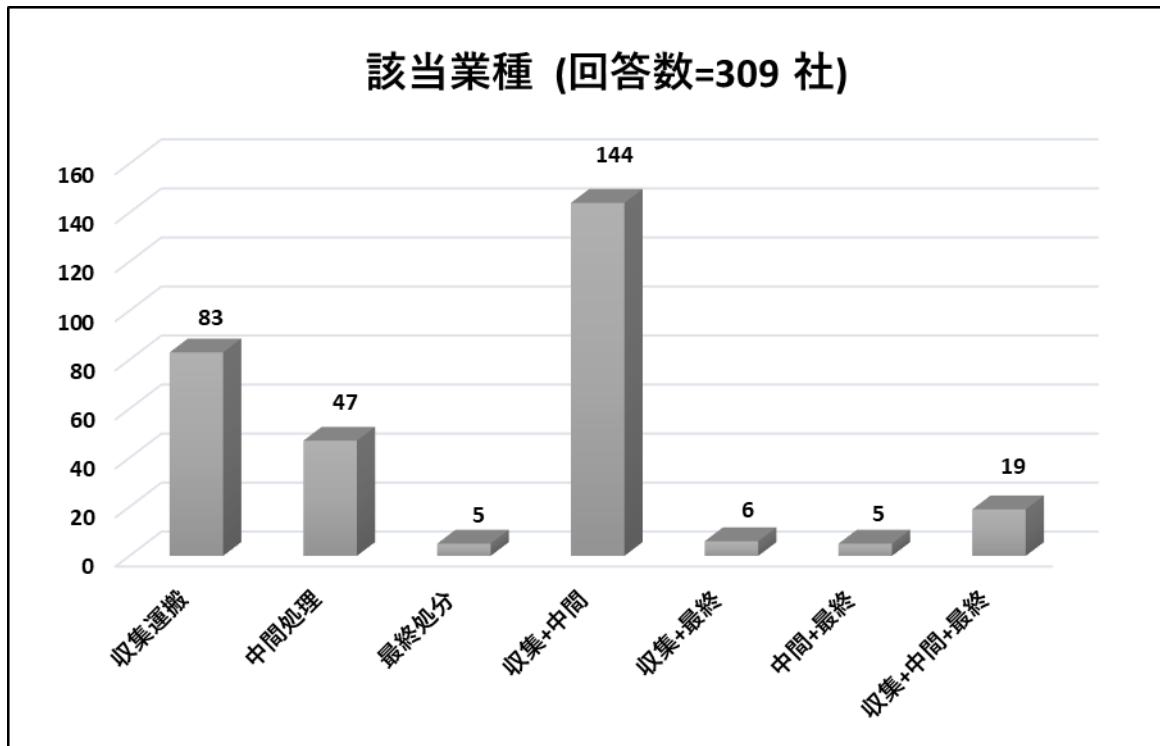
調査依頼企業数	1,251社
回答企業数	309社
回答率	24.6%

### (5) サンプル構成

#### ① 地域別構成

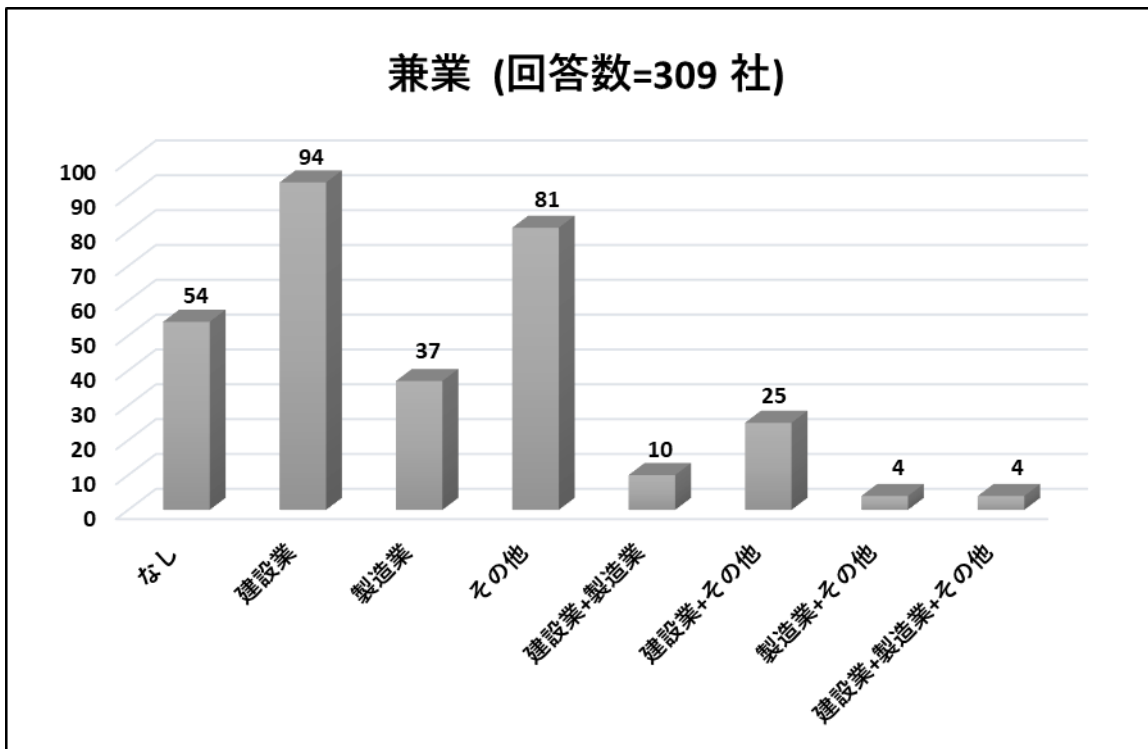
地域	企業数	構成比
北海道・東北	48	15.5%
関東	54	17.5%
信越・北陸	31	10.0%
中部	44	14.2%
近畿	30	9.7%
中国	25	8.1%
四国	34	11.0%
九州・沖縄	43	13.9%
合計	309	100.0%

② 業種別構成



該当業種	企業数	構成比
収集運搬	83	26.9%
中間処理	47	15.2%
最終処分	5	1.6%
収集+中間	144	46.6%
収集+最終	6	1.9%
中間+最終	5	1.6%
収集+中間+最終	19	6.1%
合計	309	100.0%

③ 兼業別構成



兼業	企業数	構成比
なし	54	17.5%
建設業	94	30.4%
製造業	37	12.0%
その他	81	26.2%
建設業+製造業	10	3.2%
建設業+その他	25	8.1%
製造業+その他	4	1.3%
建設業+製造業+その他	4	1.3%
合計	309	100.0%